



ポートの設定

- ・ [ポートの設定 \(GUI\)](#) , 1 ページ

ポートの設定 (GUI)

コントローラのポートは、工場出荷時にデフォルト設定が行われていて、追加設定しなくても動作する設計になっています。しかし、必要に応じて、コントローラのポートのステータスを表示し、設定パラメータを編集できます。

ステップ 1 [Controller]> [Ports] を選択して [Ports] ページを開きます。

このページには、コントローラのポート別に現在の設定が表示されます。

特定のポートの設定を変更するには、そのポートの番号をクリックします。[Port>Configure] ページが表示されます。

(注) 管理インターフェイスおよび AP マネージャ インターフェイスが同じポートにマップされており、いずれも同じ VLAN のメンバである場合は、WLAN を無効にしてから、ポートマッピングをいずれかのインターフェイスに変更する必要があります。管理インターフェイスと AP マネージャ インターフェイスが別々の VLAN に割り当てられている場合は、WLAN を無効にする必要はありません。

(注) [Port>Configure] ページで使用できるパラメータの数は、使用しているコントローラの種類によって異なります。

ポートの現在のステータスには、次のものがあります。

- ・ [Port Number] : 現在のポートの番号。
- ・ [Admin Status] : ポートの現在の状態。値 : [Enable] または [Disable]
- ・ [Physical Mode] : ポートの物理インターフェイスの設定。モードは、コントローラの種類によって異なります。
- ・ [Physical Status] : ポートで使用されているデータ レート。使用可能なデータ レートは、コントローラの種類によって異なります。

- 2500 シリーズ 1 Gbps 全二重
- WiSM2 - 10 Gbps 全二重
- 7500 シリーズ - 10 Gbps 全二重

- [Link Status] : ポートのリンクステータス。 値 : [Link Up]、または [Link Down]
- [Link Trap] : リンクステータスが変更されたときにトラップを送信するようにポートが設定されているかどうかを示します。 値 : [Enable] または [Disable]
- [Power over Ethernet (PoE)] : 接続デバイスにイーサネット ケーブル経由で受電する機能がある場合は、-48VDC を供給します。 値 : [Enable] または [Disable]

(注) 古い Cisco アクセス ポイントの中には、コントローラ ポートで有効になっていても、PoE を受電しないものがあります。このような場合は、Cisco Technical Assistance Center (TAC) にお問い合わせください。

次に、ポートの設定可能なパラメータのリストを示します。

- 1 [Admin Status] : ポートを経由するトラフィックのフローを有効、または無効にします。 オプション : [Enable] または [Disable]、デフォルト : [Enable]。

(注) プライマリ ポートリンクがダウンした場合、メッセージは内部のログにのみ記録され、syslog サーバにはポストされません。 syslog サーバへのロギングが回復するまでに、最大で 40 秒の時間がかかる可能性があります。
- 2 [Physical Mode] : ポートのデータ レートが自動的に設定されるか、ユーザによって指定されるかを表します。 サポートされているデータ レートは、コントローラの種類によって異なります。 デフォルト : [Auto]
- 3 [Link Trap] : ポートのリンク ステータスが変化したときにポートからトラップが送信されるようにします。 オプション : [Enable] または [Disable]、デフォルト : [Enable]。

ステップ 2 [Apply] をクリックします。

ステップ 3 [Save Configuration] をクリックします。

ステップ 4 [Ports] ページに戻り、変更内容を確認するには、[Back] をクリックします。

ステップ 5 設定するポートそれぞれについて、この手順を繰り返します。